

Take Free

ご自由にお持ちください



新
型コロナウイルス
感染防止
キャンペーン

青森で生きて死ぬことを想う

めめんと青森

memento aomori

特集 心の絆の未来



平安閣 CASITA みおくり郵宅

ゆっくりと歩めるエビロード

No.6
2022
October



3年ぶりのねふた祭に沸いた暑い夏が過ぎ、実りの秋となりました。

まだまだ用心は欠かせませんが、旅行や催事が再開され、少しずつ青森の街も日常を取り戻しているように見えます。皆さんのお力添えのおかげで、リンクモアでもウクライナ人道支援のチャリティ講演会や、今回本紙、「青森のひと」でご登場いただいたピアニストの岡田照幸さんにチャリティコンサートでご自分でグランドピアノを会場に持ち込んで熱演していただくなど、催しを開催することができました。多くのご支援をいただき、日本赤十字社へ120万円を寄付することができました。ご支援、ご協力いただいた方々にこの場を借りまして、心から御礼申し上げます。

今回の巻頭特集では、美術研究者、岩渕潤子氏とリンクモア船橋との対談をお届けします。アートのアカデミズム界の第一線で活躍する岩渕さんとうして青森の葬儀社の船橋が対談することになったのか。詳しくは特集ページに譲るとしまして、デジタル化された社会では、人の死を巡る思いが、遠く離れていて、これまでは決して出会うことはなかったであろう人同士を、結びつけることがあります。死を悼み、見つめ直すことで、人々を結びつける新たな絆の未来があるように思いました。「心の絆をだいじに」をモットーとするリンクモアが、来るべき社会にどのように貢献できるのか、示唆に満ちたお話をいただきました。

めめんと青森 No.6刊行いたします。みなさまの青森での暮らしの糧やヒントに少しでもなれば幸いです。

株式会社リンクモア
代表取締役社長

ふなはし もとゆき

船橋 素幸





平安閣CASITA光にてZOOMでのオンライン対談風景

[特集 | Feature]

～心の絆の未来～

いわぶち じゅんこ
岩 渕 潤子
 美術研究者
 アグロスバシア株式会社
 取締役・編集長

対 談

ふなはし もとゆき
船 橋 素幸
 リンクモア
 代表取締役社長

新しい人の死に接し、コロナ禍ということもあり、死について思いを巡らせていたアート界最先端の知性である岩渕潤子さん。ニューヨーク近代美術館でボランティアをされていた日本人女性の方がフェイスブックでリンクモア船橋のSNSに注目し、その存在を知らせました。こうしてNY経由で始まった東京の岩渕さんと青森の船橋の死や葬儀を巡る対話は、WEBマガジンでの座談会などに発展し、この特集へと繋がりました。

死が特別ではない家庭に育つ

船橋 なぜ、岩渕さんがリンクモアのことを知ったのか。少しお話いただけますか。

岩渕 毎週土曜日にオンラインで社会人向けの現代美術の講座をやっている、そのメンバーにニューヨークの近代美術館(MoMA)

で長くボランティアをされていた女性がおられ、月に一回、NYで今一番気になるトピックを紹介して頂いているのです。その彼女が「青森の葬儀社の社長さんが葬儀でVR(仮想現実)やアートを使うことをよく話しておられ、ネット社会と死について考えている岩渕さんと話が合いそうな気がする」とご紹介頂いたのがきっかけです。

船橋 そのMOMAの方とこの冊子「めめんと青森」の編集者がSNSで友達で、私のSNSを見ていたらしいですね。



岩渕氏

岩渕 初めてFBのチャットでコンタクトしたら、そのまま3時間ぐらいノンストップでメッセージのやり取りをすることになりました(笑)

船橋さんは頭の中で、人間の生死を含め、色んなことを24時間考えている方なのだなと感銘を受けました。私自身、死をタブーと思ったことがなく、あの世に対する抵抗がない。父親が医師で、親戚も医者だらけだったせいかも知れません。父は夕食の後でも呼び出しがあればすぐ出かけて行きましたし、クリスマスやお正月に親戚が集まっても、急患で次々と呼ばれていなくなる。初めて会った人のバックグラウンドを知らずに話していて、やけに気が合うなと思うと、その人も医者の家に育った人だったということがよくあります。生命の尊厳を身近に感じながら、死は特別なものではないと考えるような、共通する特別な家庭環境といったものがあるのか

も知れません。船橋さんと激しくメッセージをやり取り(?)するうち、父上がお医者さんで、ご自身も一時は医学部を目ざしておられたと知り、ああなるほどと、親近感のナゾが解けました。

愛の反対は憎しみではなく無関心

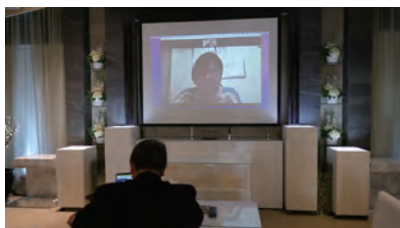
船橋 結局、医者を経がず、医者の方のバトンを受けて、この世とあの世の橋渡しの仕事させていただいていますが(笑) 多くの死と接して、生きているのが当たり前ではなく、とても貴重なことだとつくづく感じます。多死社会と言われるような高齢化社会に加えて、戦争やコロナ、本当に多くの死のニュースで、日々何人亡くなったという数字が目前を通り過ぎていく。でも、そこには一人ひとり、かけがえのない命の物語があり、生きたことへの尊敬、個々の死に関心を持つことが大事だと痛感しています。マザーテレサは「愛の反対は憎しみではなく無関心だ。」と言っています。



船橋氏

岩淵 人の死、死生観に関心を持つようになったのは、コロナ・パンデミック、そしてSNSの影響もあると思います。コロナで不安が人々に広がり、SNS上の知人が「感染したようだ」と呟いているのを見て、緩くつながった人たちの間で不安が文字として可視化されるようになりました。これまでの日本人は、身内の死について気安く語らない、ましてやSNSに書き込んだりしないものでしたが、海外在住の方が身内の危篤に際して、「入国制限があるから今からだと間に合わない。でも、会いたい…」といった、溢れる思いを吐露する。それに対して、世界中の、SNSという、言葉によって繋がっている、血縁関係も何もない人たちが共感して集まってくる。そこに新しいコミュニティが誕生する。世の中が変わってきていると感じました。私自身、コロナの直前の3年前、海外出張から戻った3日後に母が急逝して、通夜と葬儀の喪主を務めた経験がありました。SNSで家族を失った方のお話を目にする度、その時の自分の経験を思い起こしました。そんな中、遠く離れて暮らしている家族のために、今の時代なら可能となる、テクノロジーと癒しを繋げる新しいお見送りのカタチがあるのではないかと考えるようになったのです。

船橋 葬儀は人間関係、コミュニティの原点。



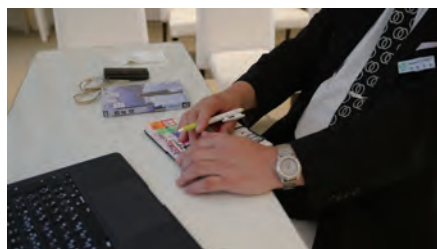
一人では死ねない。孤独な死であっても、そのあとを整え送る人が必ずいる。人間どうしの関係の最後の接点である弔う気持ちというのは、どんなに時代や技術革新が進んでも変わらないのだと考えます。

岩淵 人はどのようにして亡くなるのか。余命宣告を受けた方が、SNS上で自身の闘病について語っているのを目にすることも増えました。多くのフォロワーがその様子を静かに見守っている。やがて、闘病されていた方が亡くなって、配偶者や子どもが「今までありがとうございました」と投稿すると、世界中から「残念でしたね。でも、素晴らしいお母様でした」といった暖かい言葉が花束のように集まってくる。ネットだからといって決して軽々しいものではなく、毎回とても感動させられます。NY在住のお嬢さんが、コロナの入国規制で最愛のお母様を看取るために帰国することができず、信頼する司法書士さんと

菩提寺のお坊さん、葬儀屋さんが連携してNYとZOOMを繋いで立派な御葬儀を上げられたのもSNSで目の当たりにしました。これにSNSを通じて大勢の人たちが世界中から「きっとお母様はもうそこにいらしているはず」「笑顔で喜んでいらしゃいますよ」と声をかけ、これがまた、喪主ご本人への大きな慰めとなっているのでは強く感じました。血縁でもなく、物理的には隣近所でもない。多くの場合、実際には一度も会ったことのない人たちがこうしてデジタル・プラットフォーム上に共感し合えるコミュニティを形成することができる…デジタル社会は、そこで人の生死について語れるだけ成熟したのだと感じ、感動しました。

船橋 今では家族という最小のユニットさ

え崩壊しています。高齢化や結婚しない人も増え、一人で暮らす人が全世帯のうちほぼ4割を占めるようになった。死が人との絆に支えられて迎えられるものだと考えるときに、コミュニティの再生が求められています。死をタブー視するのではなく、死を社会化する——それは、こうしてSNSで出会った岩渕さんと私が死についてZOOMで語り合っているように、親類縁者だけではなく、遠く離れた他人同士によっても共感し支え合う。デジタル社会に相応しい新しい心の絆を結ぶための仕組みが希求されていると感じています。



岩渕潤子 神奈川県生まれ。アグロスパシア株式会社取締役・編集長。静岡文化芸術大学准教授、慶應義塾大学教授を歴任の後、青山学院大学総合文化政策学部客員教授。著書に「NY午前0時 美術館は眠らない」「美術館の誕生 美は誰のものか」「億万長者の贈り物」「ルーベンスが見たヨーロッパ」「美術館で愛を語る」など多数。

Topics from Heiankaku

池田海氏の墨彩画

平安閣本館には池田海さんの墨彩画が玄関、ホール、事務室などあちこちに多数飾られています。

リンクモアのお馴染みのゆるキャラ「ほっとちゃん」の原画と言える作品たちです。

海さんは1951年、北海道根室市生まれ。根室市役所勤務を経て、98年に青森市へ移り住みました。

本館の作品にはたくさんの可愛いお地蔵様、ほっとちゃんが描かれています。よく見ると大きく分けて2種のお顔があるのがわかります。

まず、本館に入ると玄関ホールにリ

んごの木の下でお地蔵様たちずらっと並んでいる大作に出会います。この作品のほっとちゃんの顔は、柔らかな線でみんなそら豆のようなユーモラスな形に描かれています。そして二階のふれあいの間にも複数の作品が飾られていますが、そら豆タイプに加えて、禅僧の描く円相図のような一筆の伸び伸びとした円の中に笑顔が描かれてる作品も見られます。

同じ海さんの描くお地蔵様でも、色々な個性があります。ふとした瞬間に、一番お気に入りのほっとちゃんと目が合うことがあるかもしれません。



本館玄関ホールの作品



本館2階ふれあいの間の作品

青軍真 vol.6



ともだちのヴィトン

高校時代、クラスの友人に思わぬ相談をされた。

「3歳で生き別れた父親が会いたいってさ。病気でもう長くないんだって。どう思う？」

出て行く背中しか憶えていないと言う。枝毛の数くらいしか悩みのない17の私、一緒に笑いころげていた友人が年上に見えて言葉に詰まった。大人の都合で置いていかれ今度は会いたいなんて。遊びを切り上げ家事当番だと帰る彼女、母想いの彼女、私の方がずっと見てきた。わがままのひとつやふたつ言ってやればいい。

「うーん。ヴィトンのバッグでも買ってもらいなよ」

生涯の宝物にも即刻質屋入りにもなれる。大人への反発が半分、あとの半分は答えが出ているはずの背中を押すため。今度は彼女が決める番だ。

「バッグ、買ってもらったわ」

数日後、暗に再会を告げるひと言に振り返る。いたずらっぽく笑う顔は17歳だった。彼女の手元に本当にヴィトンのバッグが存在するかどうかを私が知る必要はない。

さいとう じゅんこ

齋藤 純子

Writer/Photographer

青森市在住。

シドニーのフォトスタジオ、青森県内の制作事務所等を経てフリーランス。青森と東北を中心に、全国、青森県内向け媒体の取材・制作に携わる。「カッコトジ」代表

青 森 の ひ と

vol. 06



おかだ　てるゆき

岡田　照幸

ピアニスト

岡田さんはコロナ禍の困難を乗り越え、主催する今年の八戸イカール国際音楽祭を無事成功させたばかり。まだコロナで入国規制も厳しいポーランドなど海外からのアーティストをはじめ、国内からはバイオリニストで、前東京藝術大学学長の澤和樹氏など40人を超える超一流の音楽家を講師に招聘し、全国から集まった若手の音楽家たちがミュージックキャンプでレッスンを受けた。そして、講師たちと生徒たちが、7日間の音楽祭期間中毎日、極めてハイレベルなコンサートを繰り返した。まさに音楽のユートピアである。

岡田さんは、高度な技術と情熱的な演奏で難曲に挑む

腕っこのきのピアニストだ。

でも「イカール音楽祭では裏方に徹して、自分では演奏しない。これも大切なことなんだ。」と岡田さんはいう。

北海道北見市出身。国鉄マンの父と助産婦の母、音楽とは無縁の家に生まれた。母の務める助産所の先生が音楽好きで影響を受けた。小学3年生からピアノをはじめ、2、3年で北海道のピアノコンクールで優勝するほどになった。6年生の時にピアニストになろうと志した。東京藝術大学からポーランドのクラクフ国立音楽アカデミーに留学。第二次大戦後初、ショパン没後100年の記念すべき年にショパンコンクールで優勝したレジェン

ド、チェルニー・ステンファンスカに師事した。当時ポーランドはワレサの連帯が結成されソ連影響下の政権に反旗を翻した激動の時代。ソ連侵攻の瀬戸際の戒厳令を体験し、今のウクライナと自身の体験をダブらせる。

帰国後、明の星短期大学での教職を得て青森の暮らしが始まった。「実は青森は、最も住みたくない街だった。」と岡田さんはいう。「北海道から東京行くのに、青函連絡船で青森に着く頃にはすでに暗くなっていて、長い駅のホームを走った。」ろくな印象がなかった。でも赴任した明の星は、国際的な環境で、開かれた大学を目指し、若い教員が各地か



毎月開催しているミニコンサート「音楽は愉快だ!!」の会場わいん倶楽部で。



わいん倶楽部のすぐ上の階に岡田さんの仕事場がある。グランドピアノに楽譜が積み大学の実験室のようなものである。



グランドピアノには次の演奏に向けた譜面が。



平安閣CASITA光で開催された岡田さんのウクライナ人道支援チャリティーコンサート風景。フルートの竹澤聡子さんもゲスト出演。

ら集まっていた。青森に暮らすのも悪くないと思うようになった。

そんな青森暮らしも今年で40年。テレビの仕事で青森県内の小学校493の校歌を11年かけて聴いて回った。パーソナリティを務めるRABラジオ「岡田照幸のタッチはピアノニッショ」は今年34年になる長寿番組だ。

30代の後半、バブル経済もはじけ1990年代の日本音楽界は停滞していた。音楽界がこれからどのように進むのかを模索した。1日の大半を一人でピアノと向き合う孤独なピアニストの暮らしから、人と交わるためにはどうすれ

ば良いかと考えるようになった。ピアノ以外の楽器と一緒に演奏する形式。室内楽というスタイルに活路を見出した。そしてはじめたのが鯉ヶ沢でのミュージックキャンプだった。ソリストが何人か集まって室内楽を編成する。大人数で音楽をやるのがどれほど楽しいか。それは今日の室内楽ブームを先取りすることになった。全国からレッスンを受けにピアノ、弦楽器、管楽器などの若手が集まってレッスンと合奏を展開する。ミュージックキャンプは函館、八戸と場所を変え現在に継承されてきた。

「居場所を決めたくない

という思いと、音楽の本質である調和を求めたいということ。この2、3年は、そういうことの線引きができるようになったと感じる。」

岡田照幸という音楽家の安住を拒む孤独なピアニストの肖像と、室内楽という多様な個性の調和を楽しむ音楽のミューズを召喚するオーガナイザーとしての肖像。

岡田さんの最近の仕事に触れるにつけ、この二つの肖像が青森という街で見事に結晶したのだと実感しないわけにはいかない。

岡田照幸 1955年北見市生まれ。東京藝術大学を経て、ポーランド・クラクフ国立音楽アカデミーに留学。ポーランド、フランス、イタリア、スペイン、ハンガリー、米国でピアノリサイタル活動。音楽プロデュース、公開講座、子どものためのコンサート、音楽教室、コンクール審査員等、多岐にわたり活動している。RABラジオ「タッチはピアノニッショ」パーソナリティ。八戸イカール国際音楽祭を主催。特定非営利活動法人日本アーツプロジェクト理事長。

葬儀図鑑

ARCHIVE 06

HOSSU
THE Duster【 払 子 】
HOSSU

動物の毛や麻、綿などを束ね柄をつけたもの。僧侶の法具として、特に行事をつかさどる導師が用います。毛先はお釈迦様の髪の毛に見立てられ、修行者を導くための道具として発展しました。

法要で導師は合掌した手の人差し指と親指の間から払子の柄を出すようにして持ち、上下左右、前後に動かし、三回振る場合は右・左・右、五回振る場合は右・左・右・左・前という順番になります。払子の使用回数は各宗派で厳格に決められており、みだりに使うことは禁じられています。払子の所作には故人が生前に持っていた煩惱や穢れを落とし、迷いを断つという意味が込められています。しばしば古典絵画や彫刻にも払子が見られますが、払子を持つのは高僧であることを象徴します。

元々、払子は、仏教の発祥地インドで殺生を禁じられた僧侶が修行中に、殺さずに蚊などの昆虫を追いつぶすために使用していました。最初は植物を束ねて使っていたものが、音が出て修行の妨げになるために動物の毛に変化したとの説もあります。虫除けの「はたき」が、時代と共に僧侶の威厳のシンボルとなり、人々の穢れを払う法具へと進化していったのです。



前もって
積み立てを行うことで
もしもの時に安心を

ゴールド会員
入会特典

第3弾

リンクモア

新型コロナウイルス 感染防止キャンペーン

キャンペーン期間：2022年10月1日～11月30日



今話題の「あおもり藍」

**コロナ退散キット
プレゼント**

AOMORI BLUE SET

消臭・抗菌スプレー 240ml 1本
抗ウイルスマスク 6枚

ライオン キレイキレイ ギフトセット

ほっとちゃん商品券 2000円

家族葬と終活の相談会

相談
無料

お客さまのご都合に合わせて
ご相談、式場のご見学など承ります。

事前予約で相談会に
おいでのお客様に

一般社団法人終活カウンセラー協会発行

マイ・ウェイ

～あなたの人生をもっとよりよく

生きるための終活ノート～

(定価1000円)

エンディングノートをプレゼント



お葬式のこと

法事のこと

費用のこと

終活のこと

式場のこと



☎ 電話 017-735-1407

終活のご相談には弊社の終活カウンセラー
資格者が対応させていただきます。

終活カフェ



市役所や図書館、街で
お買い物のついでによろず無料相談

日付

10月25日(火) 26日(水) 27日(木)

11月28日(月) 29日(火) 30日(水)

12月15日(木) 16日(金)

1月11日(水) 12日(木) 13日(金)

2月20日(月) 21日(火) 22日(水)

時間 午前10時から午後3時

場所 青森市役所1階

駅前スクエア(アウガ)

※新型コロナ感染状況により
日程が変更になる場合があります。



ウクライナ支援基金

ウクライナへの人道支援募集受付中
リンクモア本社、平安閣各ホール(10時-17時)、
終活カフェなどの催しにて

みおくり邸 新青森駅

大好評の家族葬新ブランド

秋の内覧会開催!



10月15日(土)、16日(日)
午前10時～午後3時50分



ボディシャワー実演 各日11:00～11:50
模擬出棺 各日13:30～14:20

電話・ネットからの

コロナ禍のため **完全予約制**

ご予約・お問い合わせ

teL 017-735-1407

ネット予約はこちら→



予約来場特典

当日ゴールド入会特典



秋の「みやび弁当」他



お茶と苹菓セット



珈琲とフックキーセット



今治タオルセット

3種から1つチョイス

めめんと青森

NO.6

2022年10月1日発行

発行：株式会社リンクモア
〒030-0822 青森市中央1-27-10

編集：teco LLC.

本誌からの写真、文、イラストの
無断転載を禁じます。

ご葬儀に関するお問い合わせ

TEL 017-735-1407 24時間受付 年中無休

株式会社 **リンクモア**

〒030-0822 青森市中央1-27-10
<https://www.e-gojokai.com/>



みおくり邸宅 新青森駅	〒038-0003 青森市石江2-7-8
平安閣CASITA新	〒030-0812 青森市堤町2-4-2
平安閣CASITA光	〒030-0821 青森市勝田2-18-4
平安閣CASITA響	〒030-0944 青森市筒井ハッ橋39-5
平安閣アネックス	〒030-0812 青森市堤町2-4-1
平安閣本館	〒030-0812 青森市堤町2-4-16



リンクモアは持続可能な開発
目標SDGsを支援します。